

さくら第551号

令和7年11月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



たか
 樹子こそ
 時におけば
 いつかかならず
 芽が出ると
 おいたねには
 よいおが
 悪い種子には
 悪いおが
 さらしたものに
 ちかんと
 出てくる
 まつを

『日々の積み重ね』

学校の校庭などに薪を背負い本を読みながら歩いている像と言えは二宮尊徳です。静岡県小田原市で1787年に生まれ1856年に没するまでの江戸時代に、全国610か所の藩や村などの財政を復興した偉大な功労者です。

二宮尊徳が残した言葉のなかに、遠い将来を考えて行動する人は裕福になり、短期的に考える人は貧しくなるということがあります。

『遠くをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す。それ遠くをはかる者は百年のために杉の苗を植える。まして春まきて秋実る物においてをや、ゆえに富有なり。

近くをはかる者は春植えて秋実る物をも尚遠しとして植えず、唯、眼前の利に迷うてまかずして取り、植えずして刈り取る事のみ目につく、故に貧窮す』

ある5年男子が授業を終えて帰る時に「先生、来月の試験で3級受かったらやめます」と言うので理由を尋ねると母親から3級合格までは続けるようにと言われたとのことでした。

それなら頑張って3級合格を果たしてくださいと言いながら、止めたあと何もしないのならせめて2級まで続けてはと話しました。

次の授業でその子に5年生で2級合格が優良生徒表彰の基準にもなっているし、あとしばらく頑張ってみてはどうですかと伝えました。

すると、「初めから3級目標だったのでいいです」との返事に、そうですか。わかりました。受かるように頑張ってくださいと言って話は終わりました。

簡単なすぐに手の届きそうな目標なら確か

に楽です。しかしそれよりも、2級、1級や段位を目指して努力するなかで、練習を続けるための根気やあきらめずにやり抜く力が養成され、自己のレベルアップがはかられます。

それともう一つ大事なことは、3級受かれば止めてもいいという気持ちがある、練習態度のなかに現れてきます。今日の練習を休んでもなにかなるだろうという甘えの気持ちがあると、真剣さが消えて、楽して合格できないかと思ったりします。検定試験は合格基準を満たせば誰もが受かります。合格証には点数が書いてありません。

これまでも3級受かれば止めるという人でその目標を果たした人はほとんどいません。目の前のすぐのできる事も必要ですが、より大きな目標に向け、いろいろな創意工夫をしながら続けるほうが大きな成果が得られます。

ところで、塾報「さくら」を発行するにあたり100号までは何としても続けるという気持ちでスタートしました。100回ですから8年と4か月は毎月休まず発行せねばなりません。

検定試験や競技大会の成績、時節における出来事や特に感じた事などを掲載するには、資料集めが必要なので本を読む時間が増え新しい情報も必要になります。

また大事なことは体力の維持です。座る時間が長いので足腰の鍛錬と気分転換をかねて近くのトレーニングジムへ毎週3回、1時間余りを35年間続けました。時間の制約があり以後は自宅でスクワットなどを続けています。

大きな目標を達成するには準備と工夫、あきらめない気持ちの維持。続けるなかで体験することから得られる楽しみを見つけることです。

続けることで小さな成功体験を見つけ、やる気がさらなる発見を生み出します。

アメリカ大リーグでの活躍が認められ、2025年7月28日にアメリカの野球殿堂博物館にその名を刻んだイチロー選手は『ちいさなことをかさねることが、とんでもないところに行くただひとつの道』と語っています。日々のたゆまぬ努力が成功への道を開きます。

名月や
 暈の上に
 松の影
 季語Ⅱ
 名月(秋)
 宝井其角
 名月が昇っているなあ。
 暈の上には月光に照らされた松の影が落ちてくる。